

福島町定住促進・少子化対策プロジェクト

# 福島町まちづくり合同会議

(平成24年度第2回)



と き：7月30日（月）午後6時～

ところ：福祉センター 音楽室

総務課企画グループ

# 会 議 次 第

1. 事務局あいさつ
2. 第1回合同会議結果の確認について
3. 第2回町民フォーラムでの検討結果について
4. グループ討議
5. その他（今後の予定）

## 【若者定住促進及び少子化対策に関する課題】

### 1. 若者定住促進の課題

#### ア 雇用・就労の場づくり

本町は、人口減少が進み、まちの魅力も輝きを失いつつあります。雇用環境が不十分で、町内には若者や子育て中の女性等が希望する職場、職種も少なく、町外に安定した職を求めて転出しています。町外からの若者等の転入者も期待しにくい状況にあります。

このため、若者や子育て中の女性等の雇用・就労の場の確保に向けて、企業誘致や若者等の起業家育成、起業に向けた環境づくり（地場資源を活用した新たな産業・産品づくり等）の推進による、新たな職場づくりが課題となっています。

#### イ 独自性のある生活の魅力の向上

雇用・就労の場づくりと共に、若い男女が出会える場や機会づくりも当面の課題です。

若者は町内で、勉学に励むとともに、生活の楽しさや豊かさを実感できるカフェやファーストフード等の手軽な飲食の場や、安定した職を持ちカラオケ等の娯楽や遊び、スポーツやイベントなど多様な機会を通じて異性との出会い、語らいや交流を楽しめる場などの魅力も必要と考えています。

また、雇用・就労の場の確保と同時に、単身者や若者世帯の定住促進に向けた住宅の確保の課題となっています。

日常の生活環境の充実、若者が憩い集える居場所など、「学び」、「遊び」、「働く」の連環した生活環境充実のため、生活者向けサービスの集積が課題です。

### 2. 少子化対策の課題

本町では、年々出生数が減少し少子化が進むとともに、子どもを安心して産み育てる環境も不十分になってきています。子育てサポートの充実や小児科、産婦人科等の専門医療や緊急時等の不安解消に向けた仕組みづくりが課題となっています。

子どもの減少と同時に、子ども達が安心して遊ぶ場も減少しています。子どもを中心に親子で気軽に集い遊び学べる場、乳幼児の保育環境（一時保育や一時預かり、延長保育等）の充実により、子どもがいても共働きできる環境づくりも課題です。

## 【第2回町民フォーラムでの検討課題】

### Ⅱ 子どもや若者の居場所づくり

#### 1. 子どもの居場所づくり

- ①子育て支援として保育施設、幼児の学びの場、親子での出会いの場づくり
- ②地域の特性を活かした場づくり

#### 2. 若者の居場所・交流の場づくり

- ①生活関連サービスの集積・創出による場づくり
- ②イベント等の活用による場づくり

### Ⅲ 「学びと実業」の連動

#### 1. 福島商業高校との連携

- ①福島商業高校の存続

## 【目指すべき方向】

### Ⅱ 子どもや若者の居場所づくり

#### 1. 子どもの居場所づくり

子どもの居場所（学び、学習、交流、遊び）が限定的になり、グループ（集団）活動の場も減少し、社会性を育むうえでの不安も提起されています。

子どもの居場所を整備することにより、子どものコミュニティづくりを進め、子どもの笑顔が街中にあふれることにより、安心して子どもを産み育てる機運が高まることが期待できます。

同時に、子育て中の母親の不安も減り、母親がボランティア活動やNPO活動に参加する可能性も広がり、多様な活動が創出されることが期待されます。

#### 2. 若者の居場所・交流の場づくり

町の魅力づくりに向け、中高校生、若者の居場所（学び、交流、出会い、遊びの場）づくりを進めることで、近隣町からの若者の流入と、差別化が期待できます。

市街地に創出される飲食の場（フードコート等）で出会い、交流を楽しむとともに、活動の場として、学校施設などの遊休施設を利活用し、総合型地域スポーツクラブ等の仕組みを活用し生涯学習、生涯スポーツを通じて、多くの仲間たちとの絆を深め、地域の子ども達や中高年齢者とも触れ合いを深め、若者世代が街中で自由時間活動を楽しむ、新たな地域文化の創出が期待されます。

### Ⅲ 「学びと実業」の連動

#### 1. 福島商業高校の存続

本町には、道立福島商業高等学校があります。本校は本町の教育に大きな役割を果たしてきており、町民のシンボルの一つでもあります。しかし、現在存続の危機にもあります。産業の発展や生活・文化の高度化に向けて教育は無くてはならないものです。

商業高校として持つ機能と時代の求めるニーズを融合させるよう、新たな役割を認識し学校と町と町民が一体となってカリキュラムを提供することにより、役割の拡大が期待されます。